

和歌山病院での実習を終えて



島野 拳

和歌山病院での、セミナーや結核病棟の案内など貴重な体験ありがとうございました。ここでの経験は今でも鮮明に記憶として残っています。大学では座学ではなく、実際の医療現場で実習するようになり、患者を一人受け持つことでどのように関わっていくかを学んでいます。今回の実習では、セミナーで貴重なお話を聴くことができました。普段の勉強では、ただ暗記していることが多く、その勉強法では忘れてしまうことが多いです。しかし和歌山病院ではなぜそうなるのか理解して学ぶことができました。私は、その場で咄嗟に聞かれた質問に対して、すぐに答えることが苦手ですが、これから先は素早く反応する必要があると思います。考えることにおいて、大学に入り柔軟性が欠けているので、幅広い視点をもって物事を考えていきたいと思えます。X線といった画像所見は、苦手意識が強く、4年のテスト時でも画像が出題されると半ば諦めることが多々ありました。それは、先生がおっしゃっていた通り正常所見を知らないのが理由です。シルエットサインやどういった際に線が描出されるかなど、南方先生に教えて頂いた後、苦手意識がなくなり、むしろ読める嬉しさに画像を自分から見ようになりました。胸部だけでなく、ほかの部位においても応用しようと思えます。ブロンコ体操は毎日60回やっています。また、ご飯も連れて行って頂きありがとうございました。宮子姫の話など、普段では知ることでできないお話も聴くことが出来て、自分の住んでいる街をもっと知りたいなと思えました。今思えば、自分の出身地、出身校について多く語ることはできません。ただ勉強ばかりするのではなく、教養を身につけたいと感じました。御坊の土地に初めて行くことができ、地域の病院で実習し、貴重な時間を過ごすことが出来ました。本当に有意義だったと思います。

2日間でしたが、大学を離れのびのびと学ぶことが出来ました。ありがとうございました。